

「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査対象

小学校6年生の児童、中学校3年生の生徒

(2) 調査期日

令和6年4月18日（木）

(3) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）下記 i, ii を一体的に問う。

i 身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

ii 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 教科に関する調査結果

1 大津町と熊本県、全国の平均正答率の比較

(1) 小学校 7校

《小学校》 6年生	大津町	熊本県	全国
国語	64	67	67.7
算数	57	62	63.4

i 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)	
全体		14	64	67	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	59.4	63.9	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	84.1	86.1	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	71.0	73.6	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	53.7	58.3	59.8
		B 書くこと	2	65.6	68.8	68.4
		C 読むこと	3	68.2	70.4	70.7
評価の観点	知識・技能	6	65.4	69.2	69.8	
	思考・判断・表現	8	62.1	65.5	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	65.2	68.9	69.9	
	短答式	2	53.0	59.3	59.7	
	記述式	2	65.6	66.0	64.6	

○ ほとんどの問題で熊本県と全国を下回ったものの、記述式の「物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く」という問題で熊本県及び全国を上回った。

▼ 全国と比較し、最も大きく下回っている観点は、「知識及び技能」の「文の中で漢字を正しく使う」問題（「競技」「投げる」）が、いずれも6ポイント以上下回った。また、「思考・判断・表現」の「話すこと・聞くこと」における「目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、伝え合う内容を検討する」問題（－5.4ポイント）、「資料を活用し自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題（－8.5ポイント）、「読むこと」の「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」問題（－10.6ポイント）は全国や県を大きく下回った。

※ 言語事項、表現の工夫や文脈に合った話題の検討など、単なる技術獲得にとどまらず生きて働くものになるような授業改善での定着を図る。

ii 算数

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)
全体		16	57	62	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	59.2	64.5	66.0
	B 図形	4	61.0	65.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	45.0	50.3	51.7
	D データの活用	4	55.8	60.3	61.8
評価の観点	知識・技能	9	66.7	72.1	72.8
	思考・判断・表現	7	45.1	49.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	69.4	74.2	75.3
	短答式	7	55.2	60.6	62.0
	記述式	4	45.7	49.5	51.0

○ 「道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題について、全国及び県の正答率を下回ったものの僅差であった。

▼ 領域、観点のすべてが全国、熊本県の平均正答率を下回った。

全国平均との差で－5ポイント以上下回った問題が、12あるが、うち「知識・技能」が7つであり、最も差の大きかった問題は、「思考・判断・表現」の「道のりと時間の関係について考察する」問題、速さの意味について理解しているかはかる」問題で、いずれも9ポイント以上下回った。

(2) 中学校(2校)

《中学校》 3年生	大津町	熊本県	全国
国語	54	57	58.1
数学	48	50	52.5

i 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)	
全体		15	54	57	58.1	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	55.4	57.2	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	56.4	58.7	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	78.3	76.9	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	52.3	57.4	58.8
		B 書くこと	2	64.1	65.8	65.3
		C 読むこと	4	42.2	46.4	47.9
評価の観点	知識・技能	6	59.6	61.0	62.0	
	思考・判断・表現	9	50.4	54.4	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	56.8	60.0	61.0	
	短答式	3	57.8	59.8	61.8	
	記述式	3	42.2	45.3	45.5	

○ 「思考、判断、表現」C読むことの領域で、「短歌の内容について描写をもとに捉える」問題、「知識・技能」の「行書の特徴を理解しているか」という問題について、熊本県、全国ともに上回った。

▼ 全国、熊本県の平均正答率を下回った中で、特に5ポイント以上下回った問題は7つあり、うち、「思考・判断・表現」の問題が、5つである。全国と比較し、最も下回ったのは「話すこと」の「必要に応じて質問紙ながら話の内容を捉える」問題であり、11.7ポイント下回った。また、「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する」問題(－9.5ポイント)、「目的に応じて必要な情報に着目して要約する」問題(－8.6ポイント)であった。

※様々な状況に応じた内容の把握、文章と図表の関係を踏まえた解釈、目的に応じた要約など、国語科だけでなく、様々な場面で活用できるよう意識して取り組む必要がある。

ii 数学

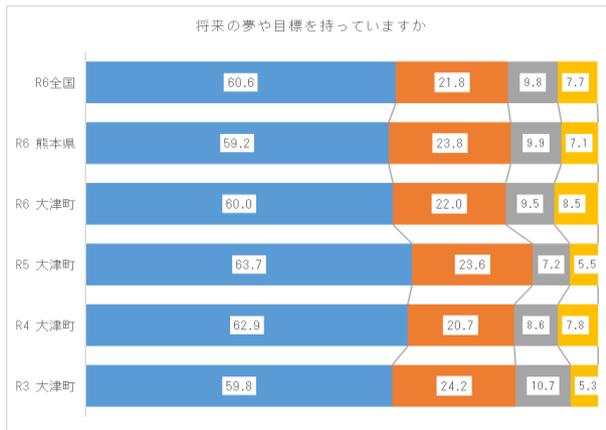
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)
全体		16	48	50	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	44.0	47.2	51.1
	B 図形	3	37.5	36.1	40.3
	C 関数	4	57.6	60.0	60.7
	D データの活用	4	50.5	52.3	55.5
評価の観点	知識・技能	11	59.2	60.6	63.1
	思考・判断・表現	5	22.7	25.3	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	57.0	57.0	58.5
	短答式	6	61.1	63.7	67.0
	記述式	5	22.7	25.3	29.3

▼ 領域、観点のすべてが全国の平均正答率を下回った。全国と比較し、5ポイント以上下回っている7つのうち、特に「数と式」の「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す」問題（知識・技能）が10ポイント下回り、「数と式」の「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」問題は、13.3ポイント下回っている。偶数を $2n$ として捉えられておらず、連続する偶数を2ずつ増えるという捉え方をできていないことが誤答につながっており、考えを筋道立てて説明することについて31.3%が無回答であった。

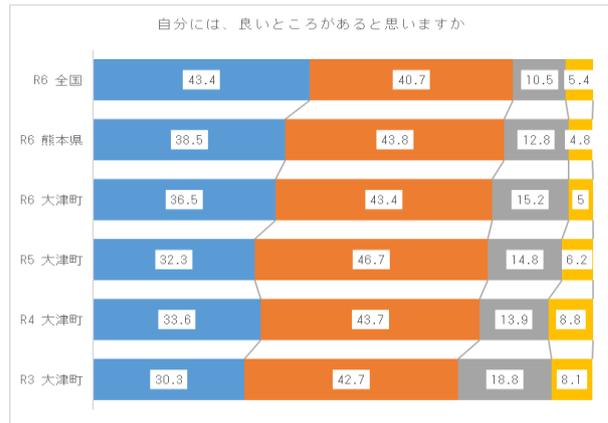
また、最も無回答率が多かったのは、「図形」の「思考・判断・表現」の三角形の合同を基にして説明する「筋道を立てて考え、証明する」問題が、41.5%であり、記述問題への取組に課題があった。

3 質問紙による調査 (1) 小学校

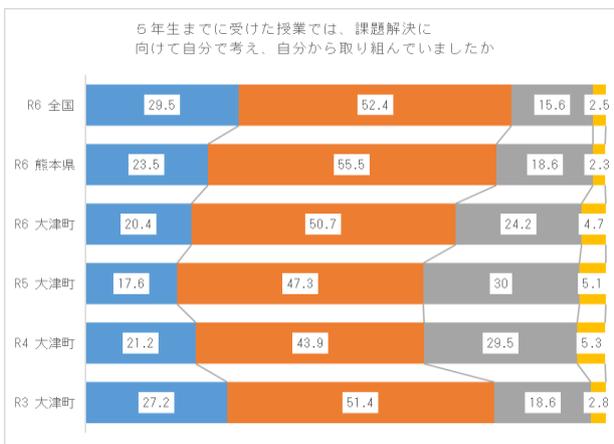
① 将来の夢 (キャリア教育)



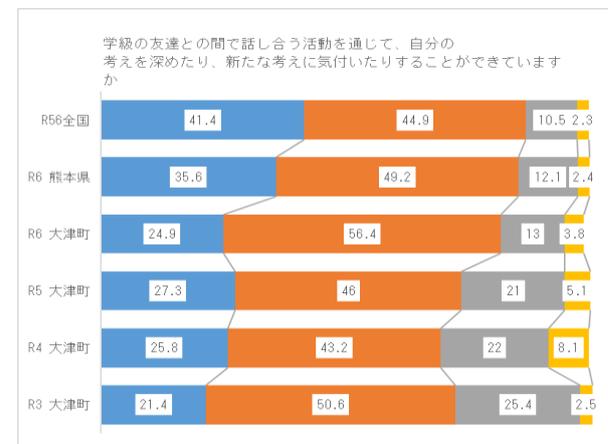
② 自己肯定感 (特別活動)



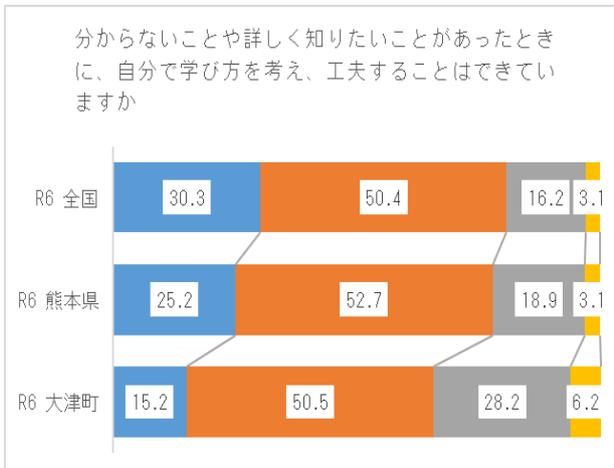
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び



⑤ 自己調整

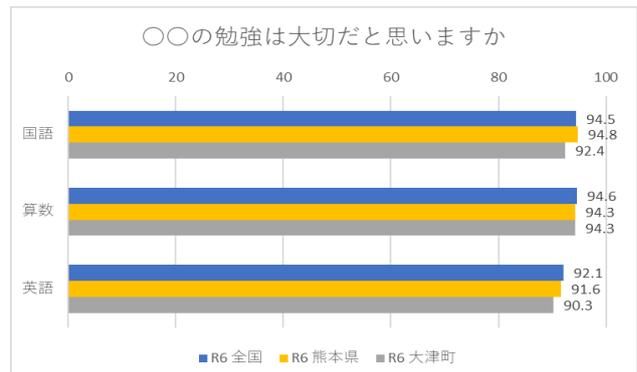
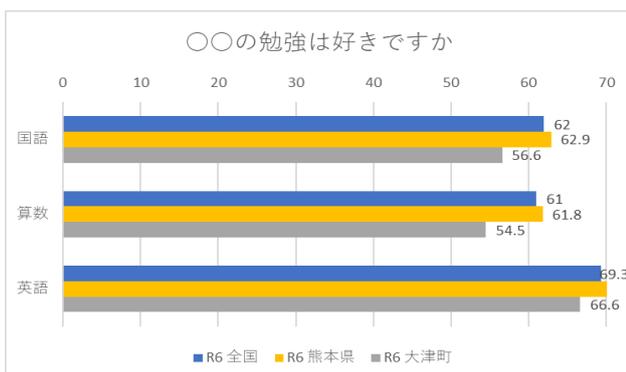


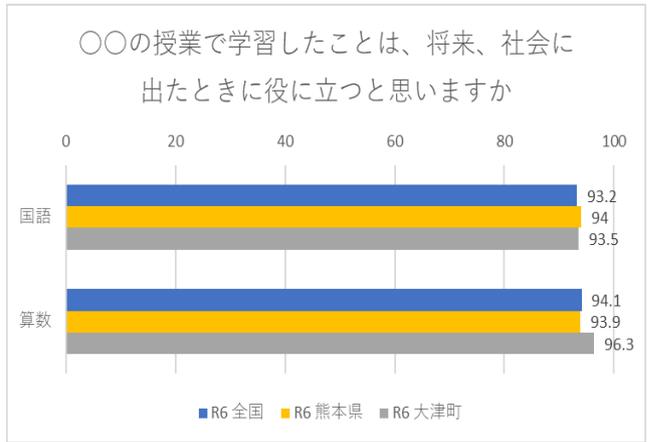
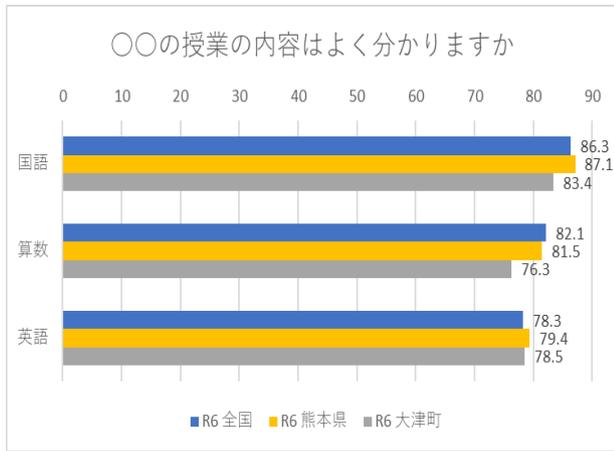
○将来の夢については、肯定的な回答が県の数値をわずかながら上回った。

▼自己肯定感、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、自己調整の部分で肯定的な回答が全国や県を下回ったものの、対話的な学びについては肯定的な回答が増え、前年度を上回り意識の向上は見られる。

▼自己調整の項目で、全国や県と比較し、10ポイント近く下回っており、学び方を意識したり、工夫したりする児童の育成を図る必要がある。

⑤ 教科の学習について (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)

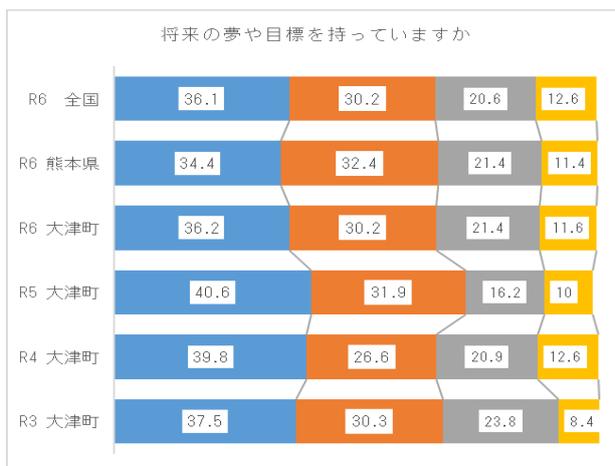




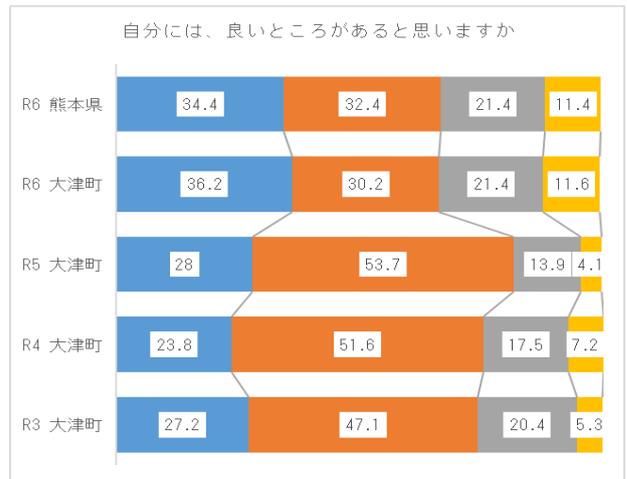
○教科の勉強は大切だと思っている児童の割合は依然として高い。学んだことが役に立つという意識は、全国を上回った。
 ▼教科の「好きですか」の質問は、どの教科も国や県を下回り、国語や算数で肯定的な回答が6割いかなかった。また、「分かる」という質問について国語は若干下回り、算数は全国や県に5ポイント程度下回っている。主体的な学び、対話的、深い学びの肯定的な回答の結果等と関連して考えると、「分かる」ということと意欲とが強く結びついており、児童が自ら学ぶ経験を重ね、自分の変化や成長を実感できるような手立てが必要である。

(2) 中学校

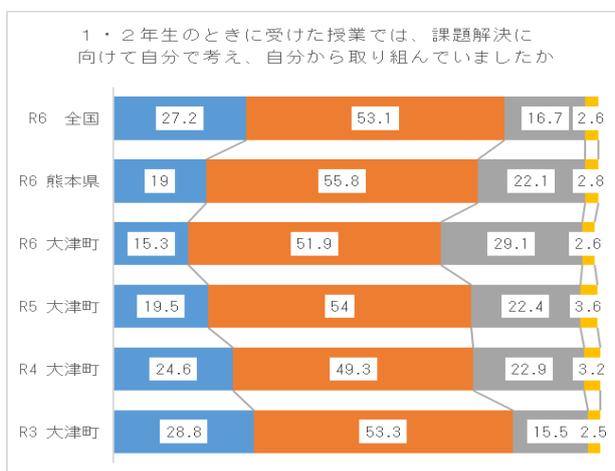
① 将来の夢 (キャリア教育)



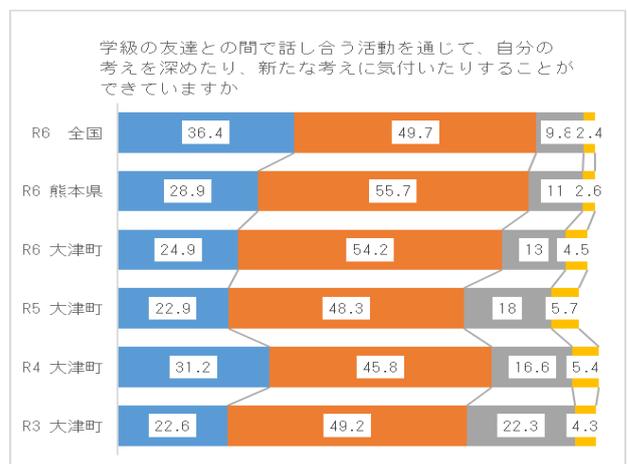
② 自己肯定感 (特別活動)



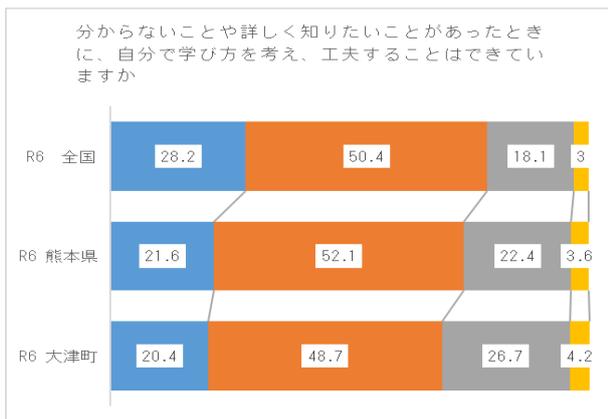
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び

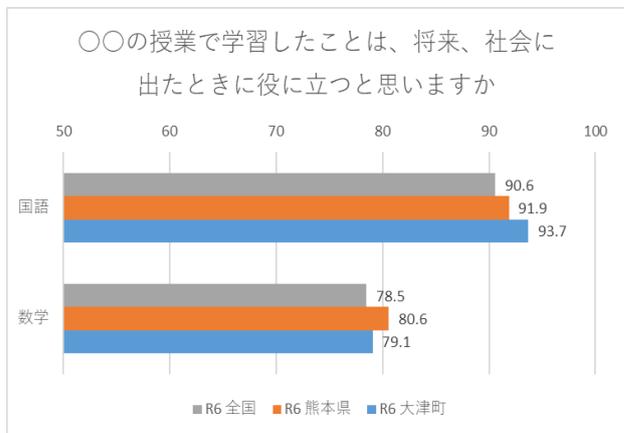
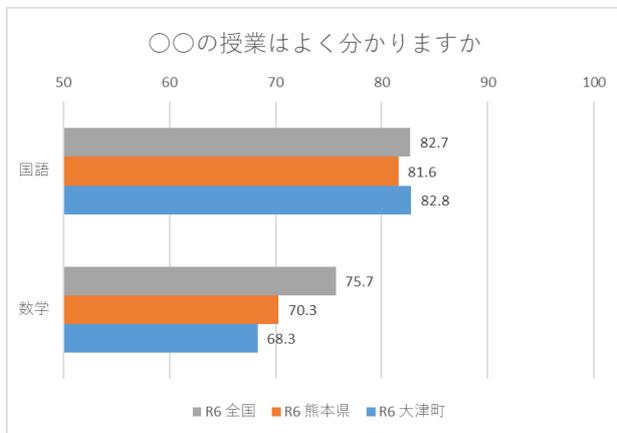
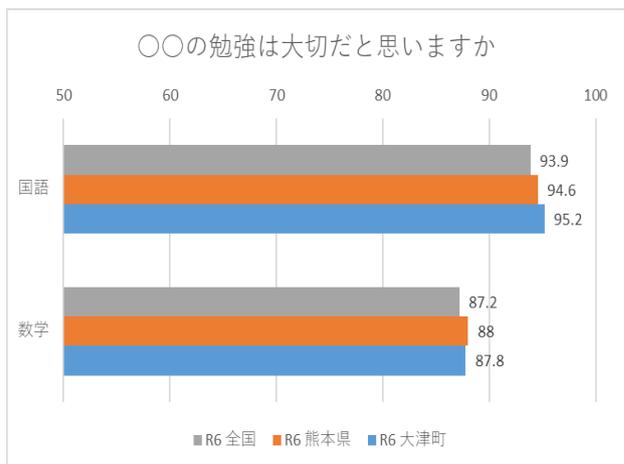
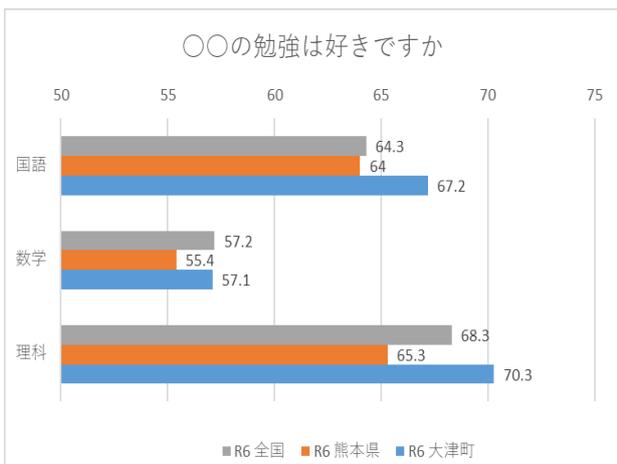


⑤ 自己調整



○将来の夢については、肯定的な回答が全国や県の数値を上回った。対話的な学び、深い学びについての肯定的な回答が増えていることから、授業改善が進んでいることが推察される。
 ▼対話的な学び、深い学びについては、国や県の結果と比べて下回っており、前年度よりも肯定的な回答が減った。
 ▼自己調整では、5ポイント近く下回っており、生徒自身が学び方を考えたり、工夫したりする点に課題が残った。

⑤ 教科の学習について（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）



○教科の勉強を好きと感じている生徒の割合は全国や県と比較して多く、勉強は大切だと思っている生徒の割合が多い。また「分かる」「役に立つ」については国語で肯定的な回答が多かった。
 ▼全体的に、数学に関する肯定的な回答が他教科と比べて少なく、役に立つという意識も県を下回った。学んだことが役に立つという経験につながる授業改善、一人一人が分かったという実感に伴う理解と表現の繰り返し等の取組を通して、意識の向上は図れると考える。